

下呂農林事務所の普及活動状況 令和7年3月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■長期研修生 研修状況確認実施

下呂市では、今春就農する就農研修生2名が3月をもって「飛驒トマト研修農園 in 下呂」の2年間の研修プログラムを修了しました。

研修生らは、令和5年4月からの2年間、あすなろ農業塾長のもとでの実践的な栽培技術指導を受けるとともに、飛驒就農支援塾では栽培技術に加えて農業経営全般についても積極的に学んできました。

3月12日には、下呂総合庁舎内で市農務課、ぎふアグリチャレンジ支援センターと連携し、研修状況を確認しました。

2年間の研修の充実度や効果を振り返り確認するとともに、就農を間近に控えた現在の心配事や不安についても意見交換を行いました。

研修生からは、「2年間で完璧とはいかないが、1人でトマト栽培ができるだけの経験ができ、知識も身に着けることができた。」「ここまで育てて頂いたあすなろ農業塾長や先輩方に報いるためにも良い成績を残したい。」などの声があり、2年間で学んだことを自らの経営として実践していく意欲が感じられました。

農業普及課では、研修生の就農後も関係機関と連携し、経営の安定化と発展に向けて伴走支援を行っています。
(地域支援係)



【研修状況確認の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■南飛驒小坂はなも産直市運営協議会 秋播き野菜の高温と病害虫対策について講義

農業普及課では、管内の農産物直売所における地産地消の取り組みを支援しています。

3月18日に、下呂市内の直売所出荷グループの1つである「南飛驒小坂はなも産直市場運営協議会」の勉強会にて、「秋野菜の高温と害虫対策」というテーマで講義を行いました。

高温対策は、作型の変更、高温耐性品種の活用、資材の変更、栽培管理の見直しについて、メリットや注意点を踏まえ提案しました。

また、病害虫対策については、農薬の安全使用についての基礎的な事項と、ローテーション防除の必要性や農薬の選び方について説明しました。

参加者からは、「大豆の場合、どのような高温対策をすればよいのか教えて欲しい。」等の質問があり、活発な勉強会となりました。

農業普及課では、今後とも関係団体と連携し、病害虫や農薬等について、情報提供を行っていきます。
(地域支援係)



【講義の様子】